

(限 内 部)

0765

海軍公報

(部内限) 第二千二百二十九號

昭和十一年一月六日(月)

海軍大臣官房

○ 辭 令

上海駐在ヲ免ス

海軍少佐 山田 達也

同 鈴木 正金

上海駐在ヲ命ス(以上一併海軍省)

○ 雜 款

○郵便物發送先

第一航空戰隊司令部、軍艦鳳翔宛

一月 九 日迄ニ到達見込ノモノハ

横 須 賀

同 三 十 日迄ニ 同

横 濱 市 鶴 見

二 月 五 日迄ニ 同

横 須 賀

同 十 日迄ニ 同

館 山

同 二 十 一 日迄ニ 同

佐 伯

第十三驅逐隊(若竹、早苗、吳竹)宛

自 今 基隆局氣付

海軍公報(部内限) 第二千二百二十九號 昭和十一年一月六日

(限 内 部)

0766

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十號

海軍大臣官房

昭和十一年一月七日(火)

○ 雜 款

○郵便物發送先
第九驅逐隊(夕暮、有明)宛
自 今

浦 賀

海軍公報(部内限) 第二千二百三十號

昭和十一年一月七日

三

0767

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十一號

海軍大臣官房

昭和十一年一月八日(水)

○令 達

官房機密第一二號

昭和十一年一月八日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
舞鶴要港部司令官
兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿中左ノ通改正ス

記

主管別	部 類	兵器名稱	指 定	記 事
水雷長	掃海之部	爆破信管	削 除	數ヲ削ル(掃海藥繼「掃 ノ」用紙中ノモノ)
同	陸用信管	追加	追 加	掃海藥繼「掃ノ」用紙 ニ追加シ數量ハ從來ノ爆 破信管ノ數量ト同一トス
同	接續器共			

○辭 令

海軍公報(部内限) 第二千二百三十一號

昭和十一年一月八日

五

(各通)	海軍法務官	岡村 贊二
(各通)	海軍録事	大曲 四郎
上海へ出張ヲ命ス(海軍省)	海軍大佐	山本 弘毅(艦本)
同	同	齋藤 二朗(長門)
同	同	佐々木 清恭(艦本)
同	同	清水 巖(同)
同	海軍中佐	只木 信行(吳艦)
同	同	一宮 義之(軍令)
同	同	柳本 柳作(軍務)
同	同	高橋 雄次(長門)
同	同	松 尾 實(艦本)
同	同	山高松次郎(長門)
(各通)	海軍少佐	小野 良二郎(吳鎮)
同	海軍機關大佐	三戸 由彦(艦本)
同	海軍機關中佐	野宮 三郎(長門)
同	同	木原 直孝(吳艦)

同 島本 万太郎(艦本)
 海軍機關少佐 田邊 保里(吳鎮)
 同 今田 乾吉(軍務)
 海軍造船大佐 村上 義次(艦本)
 海軍造船中佐 藁谷 英彦(吳廠)
 軍艦長門審議委員ヲ命ス(海軍艦政本部)

(限 内 部) 0769

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十二號

海軍大臣官房

昭和十一年一月九日(木)

○通牒

官房第七六號

昭和十一年一月九日

海軍大臣官房



各鎮守府司令長官
舞鶴要港部司令官
海軍艦政本部長 殿

臨時工廠長會議開催ノ件申進

明年度工作應事業實行ニ關シ臨時工廠長會議ヲ本年二月五、六日ノ兩日開催セラルルニ付工廠長、航空廠長、舞鶴要港部工作部長、技術研究所長及火藥廠長ヲ海軍艦政本部ニ參集セシメラレ度

經契第三號ノ一二四五

昭和十年十二月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍公報(部内限) 第二千二百三十二號

昭和十一年一月九日

七

機關用銅管價格改訂ノ件通牒

八月一日附經契第三號ノ九八四ヲ以テ通牒ノ首題銅管價格ハ契約書第一條第二項ニ依リ左記ノ通り更改契約致候條處理相成度

記

更改契約書

八月一日附海軍省經理局長村上春一ト住友伸銅鋼管株式會社、株式會社神戸製鋼所、古河電氣工業株式會社、湯淺伸銅株式會社トノ間ニ締結セル機關用銅管ニ關シ更改スルコト左ノ如シ
一、第一條中別紙價格表ヲ別紙ノ通改ム
右更改契約ノ證トシテ本書貳通ヲ作り雙方記名調印シテ各自其ノ壹通ヲ保有ス

昭和拾年拾貳月壹日

海軍省經理局長 村上 春一

住友金屬工業株式會社

0770

海軍公報(部内限) 第二千二百三十二號

昭和十一年一月九日

八

株式會社神戸製鋼所
古河電氣工業株式會社
湯淺伸銅株式會社
(別紙十頁添)

住友金工業株式會社												製造所
内徑(耗)	厚(耗)	長(耗)	單重量(耗)	庇當單價	本當單價	記						事
四〇〇	五・五	五、〇〇〇	三一・八	六・六〇	壹、九五	本表單價中ニハ官ノ指定スル納入場所迄ノ運搬荷造費ヲ含ムモノトス (以下同斷) 在大阪監督官						本表單價中ニハ官ノ指定スル納入場所迄ノ運搬荷造費ヲ含ムモノトス
三八〇	五・五	三、〇〇〇	一七七・八	五・五〇	九八六							
三六〇	三・二	三、〇〇〇	九七・五	四・八〇	四七〇							
三四〇	二・九	五、〇〇〇	一三九・〇	四・壹參	五七四							
三四〇	二・九	三、〇〇〇	八三・四	四・壹參	參四四							
三四〇	三・二	五、〇〇〇	一五三・五	四・〇〇	六壹七							
三二〇	五・五	五、〇〇〇	二五〇・三	參・參四	八參六							
三二〇	二・九	五、〇〇〇	一三〇・九	參・五五	四六四							
三〇〇	四・五	五、〇〇〇	一九一・六	貳・九參	五六壹							
三〇〇	二・九	五、〇〇〇	一二二・八	參・壹四	參八五							
三〇〇	二・九	三、〇〇〇	七三・七	參・壹四	貳參壹							
二八〇	四・〇	五、〇〇〇	一五八・八	貳・五貳	四〇〇							
二八〇	三・二	五、〇〇〇	一二六・七	貳・五貳	參壹九							

繼目無銅管

(昭和十一年一月九日公報(部内限)別紙)

0772

鋼 製 戸 神 社 會 式 株											社			
二二〇	二二〇	二二〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二五〇	二五〇	二六〇	二六〇	二六〇	二七〇	二八〇	二八〇
二・六	二・九	三・五	二・九	三・五	四・〇	二・九	四・〇	二・九	二・九	四・〇	四・〇	四・〇	二・九	二・九
五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇
八〇・九	九〇・四	八七・五	五九・一	九八・五	一一九・一	一三六・四	一〇二・五	一四二・〇	六四・〇	一〇六・六	一四七・六	一五三・二	六八・八	一一四・七
貳〇〇〇	壹八貳〇	壹六九〇	貳〇〇〇	壹九〇〇	壹九〇〇	貳貳壹〇	貳壹壹〇	貳參壹〇	貳參壹〇	貳貳壹〇	貳貳壹〇	貳四壹〇	貳六貳〇	貳六貳〇
壹、六壹八〇〇	壹、六四五〇	壹、四七八七〇	壹、壹八貳〇〇	壹、九七〇〇〇	貳、貳六貳九〇	貳、五九壹六〇	貳、貳六五貳〇	貳、九九六貳〇	壹、四七八四〇	貳、四六貳四〇	參、貳六壹九〇	參、六九貳壹〇	壹、八〇貳五〇	參、〇〇五壹〇
											在八幡監督官			

二

0773

業 工 屬 金 友 住											所			
一五〇	一六〇	一六〇	一六〇	一七〇	一七〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一九〇	一九〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
二・九	二・三	二・三	二・九	二・六	二・九	二・六	二・六	三・二	三・二	二・六	三・二	二・六	二・九	三・二
五、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
六二・〇	四一・八	五二・二	六六・〇	六二・七	七〇・一	一三・三	六六・四	六五・六	八二・〇	七〇・〇	六九・一	七三・六	八二・三	九〇・九
壹〇貳五	壹〇七五	壹〇七五	壹〇貳五	壹〇八五	壹〇七五	壹〇八五	壹〇八五	壹〇七五	壹〇七五	壹貳九〇	壹壹九〇	壹六九〇	壹六四〇	壹六〇〇
六參五五〇	四四九參〇	五六壹壹〇	六七六五〇	六八〇貳〇	七五參五〇	壹四四參〇	七貳〇四〇	七〇五貳〇	八八壹五〇	九〇參〇〇	八貳貳貳〇	壹貳四參八〇	壹參四九七〇	壹四五四四〇
在大阪監督官														

三

株式					株式					株式					
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一一〇	一一〇	一二〇	一二〇	一二〇	一三〇	一三〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一五〇	一五〇
二・三	二・六	四・五	二・〇	二・三	二・〇	二・三	二・〇	二・六	二・六	二・三	二・六	二・六	二・六	二・三	二・六
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
三二・九	三七・三	六五・七	三一・三	三六・一	三四・一	三九・三	四四・六	三六・九	四八・二	四五・八	四一・四	五一・八	四九・〇	五五・五	五五・五
壹〇參〇	壹〇壹五	九九五	壹〇參〇	壹〇參〇	壹〇四五	壹〇四五	壹〇貳五	壹〇四五	壹〇貳五	壹〇四五	壹〇貳五	壹〇貳五	壹〇七五	壹〇五五	壹〇五五
參參八八〇	參七八五〇	六五參七〇	參貳貳參〇	參七壹八〇	參五六參〇	四壹〇六〇	四五七壹〇	參八五六〇	四九四〇〇	四七八六〇	四貳四參〇	五參〇九〇	五貳六七〇	五八五五〇	五八五五〇
					在神戸監督官										

所 鋼 製 戸 神 社 會

七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七五	八〇	八〇	八五	八五	九〇	九〇	九〇	一〇〇	一〇〇
二・〇	二・〇	二・三	二・六	三・五	二・〇	二・〇	二・三	二・〇	二・三	二・〇	二・三	二・六	二・〇	二・三
四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇
一六・一	二〇・一	二三・二	二六・四	三六・〇	二一・五	二二・九	二六・五	二四・三	二八・一	二五・七	二九・七	三三・七	二八・五	二六・三
								壹		壹			壹	壹
九八〇	九八〇	九六五	九五五	九五五	九八五	九八〇	九六〇	〇〇五	九八五	〇〇五	九八五	九八五	〇貳五	〇參〇
壹五七七〇	壹九六九〇	貳貳參八〇	貳五貳壹〇	參四參八〇	貳壹壹七〇	貳貳四四〇	貳五四四〇	貳四四貳〇	貳七六七〇	貳五八貳〇	貳九貳五〇	參參壹九〇	貳九貳壹〇	貳七〇八〇

0776

株式會社													
四五	四五	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五五	六〇	六〇	六〇	六五	七〇
二・六	三・二	一・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・三	三・二	二・〇	二・〇	二・三	二・六	二・〇	二・〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、五〇〇
一七・三	二一・六	七・一	八・七	一一・六	一四・五	一六・八	二三・八	一五・九	一七・三	二〇・〇	二二・八	一八・七	六・〇
九五五	九五五	壹壹壹五	九八〇	九八〇	九八〇	九六五	九五五	九八五	九八〇	九六五	九五五	九八五	九八〇
壹六五	貳〇六	七九壹	八五貳	壹壹參六	壹四貳壹	壹六貳壹	貳貳七貳	壹五六六	壹六九五	壹九參〇	貳壹七七	參四壹八	五八八〇

六

0777

所 鋼 製 戸													
二五	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三五	三五	四〇	四〇	四〇	四〇	四五
四・五	一・〇	二・〇	一・八	二・六	二・九	三・五	一・八	一・八	一・八	二・〇	二・三	二・九	一・八
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
一八・六	四・三	八・九	八・〇	一一・八	一三・三	一六・四	一・九	九・三	一〇・五	一一・七	一三・六	一七・四	一一・八
	壹		壹										壹
九九〇	〇六五	九八五	〇〇〇	九六五	九六五	九六五	九八五	九八五	九八〇	九七五	九六五	九五五	〇壹五
壹八四壹〇	四五七〇	八七六〇	八〇〇〇	壹壹參八〇	壹貳八參〇	壹五八貳〇	壹八七〇	九壹六〇	壹〇貳九〇	壹壹四〇〇	壹參壹貳〇	壹四八八〇〇	壹壹九七〇
在大阪監督官													

七

古河電氣工業株式會社												
二五	二五	二五	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二五	二五	二五
三・二	二・九	二・三	一・八	一・八	一・八	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	一・八	二・〇	二・三
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	六、五〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
一・二・六	一・一・三	八・八	〇・六	四・四	五・五	四・九	六・二	八・〇	八・二	六・七	七・五	八・八
九九〇	九九〇	九九〇	壹〇參〇	壹〇參〇	壹〇參〇	壹〇壹五	壹〇壹五	壹〇九五	壹〇〇五	壹〇〇〇	九九〇	九九〇
壹貳四七〇	壹壹壹八〇	八七壹〇	六壹〇	四五參〇	五六六〇	四九七〇	六貳九〇	八七六〇	八貳四〇	六七〇〇	七四貳〇	八七壹〇

八

0779

株 銅 仲 淺 湯											社					
六	六	六	六	八	八	八	一〇	一〇	一〇	一〇	一二	一二	一五	一五		
一・六	一・八	二・〇	二・三	一・〇	一・六	二・〇	一・六	一・八	二・〇	三・二	一・六	一・八	一・八	一・八		
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四五〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇		
一・七	二・〇	二・二	二・七	〇・一	二・一	二・八	二・六	三・〇	三・四	五・九	三・〇	三・五	三・四	四・二		
壹壹五五	壹壹六五	壹壹六五	壹壹六五	壹貳五五	壹〇八五	壹〇八五	壹〇八五	壹〇八五	壹〇八五	壹〇七五	壹〇六五	壹〇五五	壹〇參五	壹〇參五		
壹九六〇	貳參參〇	貳五六〇	參壹四〇	壹貳〇	貳貳七〇	參〇參〇	貳八貳〇	參貳五〇	參六八〇	六參四〇	參壹九〇	參六九〇	參五壹〇	四參四〇		
											在大阪監督官					

九

社 會 式						
九・五	三	四	四	五	五	六
五・五五	一・〇	一・〇	一・四	一・〇	二・五	一・六
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇
一一・七	〇・六	〇・七	一・一	〇・八	二・六	一・四
壹壹六五	壹八九五	壹六〇〇	壹四〇〇	壹四五〇	壹壹六五	壹壹五五
壹參六參〇	壹壹參〇	壹壹貳〇	壹五四〇	壹壹六〇	參〇貳〇	壹六壹〇

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十三號

昭和十一年一月十日(金)

海軍大臣官房

○令 達

官房第九七號

當分ノ間舊特務艇見島ヲ左ノ通假稱シ部内限之ヲ使用ス

昭和十一年一月十日

海 軍 大 臣

假 稱 名

廢艦第七號

○雜 款

○郵便物發送先

第三艦隊司令部、軍艦出雲宛

一月十三日迄ニ到達見込ノモノハ 上

同 十九日迄ニ 同 基 隆 海

同 二十七日迄ニ 同 上 海

二月十一日迄ニ 同 高 雄 海

同 十三日迄ニ 同 馬 公 海

其ノ後ハ

海 公 雄 海 隆 海

第五驅逐隊及驅逐艦松風、春風宛

一月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 横 須 賀

同 三十日迄ニ 同 東京石川島造船所

其ノ後ハ 横 須 賀

驅逐艦旗風、朝風宛

當分ノ間 横 須 賀

追テ司令宛又ハ隊宛ノ書類ニシテ各艦ニ配布ヲ要

スト認メラルルモノハ寫ヲ直接各艦宛御送付ノコ

トニ御取計ヲ得度

尙給與關係書類ハ旗風(主計長乘艦)ニ御送付ヲ

得度

(第 五 驅 逐 隊)

○書類發送先

叢雲 神戸川崎造船所

薄雲 兵庫縣赤穂郡相生町播磨造船所

白雲 吳

當隊右ノ通當分ノ間分離行動ニ付司令又ハ隊宛書類

ニシテ各艦ニ配布ヲ要スト認メラルルモノハ寫ヲ直

接各艦宛送付ノコトニ御取計ヲ得度

(第 十 二 驅 逐 隊)

海軍公報(部内限) 第二千二百三十三號

昭和十一年一月十日

九

(限 内 部) 0782

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十四號

海軍大臣官房

昭和十一年一月十三日(月)

○令 達

官房第一四二號

昭和十一年一月十三日

海 軍 大 臣

關係各所屬長官殿

諸會議ニ關スル件訓令、

別ニ定ムルモノノ外昭和十一(會計)年度ニ於テ開催

スベキ諸會議左ノ通定ム

會議開催ノ期日ハ追テ指定ス關係諸官ヲシテ指定期日

ノ前日迄ニ上京セシムベシ

所要旅費ハ別途之ヲ配付ス

會議種別 概定時間 期間 參 列 諸 官

參謀長會議

六月上、
中旬ノ交

七日

各鎮守府、各要港部、駐
滿海軍部、第一、第二、
第三艦隊參謀長

人事長會議

五月上旬

三日

各鎮守府人事長

機關長會議

六月中旬

三日

各鎮守府、第一、第二艦
隊、舞鶴要港部機關長

軍醫長會議

三月上旬

三日

各鎮守府、第一、第二艦
隊、舞鶴要港部軍醫長及
海軍軍醫學校長

主計長會議

五月下旬

三日

各鎮守府、第一、第二艦
隊、舞鶴要港部主計長及
海軍經理學校長

法務長會議

三月中旬

三日

各鎮守府、舞鶴要港部法
務長及艦隊附司法事務官

工廠長會議

六月上旬

五日

各海軍工廠長、海軍航空
廠長、海軍技術研究所長、
海軍火藥廠長、舞鶴要港
部工作部長及海軍燃料廠
長

建築部長會議

五月下旬

三日

各海軍建築部長、吳海軍
建築部舞鶴出張所首席職
員

○辭 令

海軍少將 熊岡 讓(艦本)

海軍公報(部内限) 第二千二百三十四號 昭和十一年一月十三日

0783

海軍公報(部内限) 第二千二百三十四號 昭和十一年一月十三日

一三

(各通)

海軍少佐 岩上 英壽(伊七潜)

海軍機關大佐 北野 綱雄(艦本)

海軍機關少佐 田邊 保里(吳鎮)

同 沼田 章(吳廠)

同 清水 義喬(伊七潜)

伊號第七十潜水艦審議委員ヲ命ス(前海軍艦政本部)

0784

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十五號

昭和十一年一月十四日(火)

海軍大臣官房

○通牒

航本機密第五一號

昭和十一年一月十三日

海軍航空本部長

佐世保、廣海軍工廠長
海軍航空廠長 殿

航空兵器修理材料供給追加ノ件通牒

昭和十年三月二十七日航本機密第四三三號通牒ニ左記
ヲ追加ス

記

供給先

年額

軍艦長門

五〇圓

軍艦川内

四〇圓

(昭和十年三月二十八日公報(部内限)参照)

○雜款

○郵便物發送先

吳防備戰隊司令部、軍艦白雲、第十一掃海隊(掃一
六、掃一五、掃一四、掃一三)宛

一月十九日迄ニ到達見込ノモノハ

大分縣佐賀關

同 二十一日迄ニ 同

愛媛縣宇和島

第十二驅逐隊宛

驅逐艦白雲

自今

海軍公報(部内限) 第二千二百三十五號

昭和十一年一月十四日

一三

(限 内 部) 0785

海軍公報 (部内限) 附録

海軍大臣官房

昭和十一年一月十四日(火)

昭和十年十一月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

(海軍省軍務局)

艦船名	加算始終期(左)	發地名	行先	任務	加算率(月)	恩給叙勳	記事
龍田	一〇年十一月一日	馬公	厦門	外國鎮戍	一月半	同上	
球磨	一一〇年十一月一日	鹿兒島	揚子江	同上	同上	同上	
夕張	一一〇年十一月一日	馬公	同	福州	同上	同上	
駒橋	一一〇年十一月一日	横須賀	幌筵海峡	遠洋航海	一三分月		
勝力	一一〇年十一月一日	吳	南洋	同			

海軍公報 (部内限) 附録

0786

萩	菊、葵	阜吳若 苗竹竹	秋 風	帆太羽 刀 風風風	夕汐灘島 風風風	出 雲
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一九	二六	一八	三〇	二七	二〇	一一
旅順	旅順	旅順着	馬公	馬公着	馬公着	佐世保
塘沽	秦皇島	青島	厦門	厦門	佐世保へ	揚子江
同	外國鎮戍	關東州 在勤	外國鎮戍	臺灣在勤	臺灣在勤	外國鎮戍
同	一月半	半月	一月半	半月	半月	一月半
同上	同上	同上	同上	同上		同上

海軍公報 (部内限) 附録

二

海軍公報 (部内限) 附録

列 萱	美 蓉		朝 顔	薦		藤	薄	
.....	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
九馬公	二六同	九馬公	九馬公	二〇旅順發	九五旅順	二〇旅順發	五旅順	二〇旅順發
	油頭			吳 ^へ	塘沽	吳 ^へ		吳 ^へ
	外國鎮戍			(在關東勤州)	外國鎮戍	(在關東勤州)		(在關東勤州)
	一月半				一月半			
	同上				同上			

洲	蓼	蓬		蓮		菱、 董	柿、 楡		
埼						一〇	一〇		
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一八	八	一四	六	二六	一四	一六	一六	二六	二三
横須賀	旅順	佐世保	同順	同	佐世保	鎮海發	鎮海着	馬公	高馬公
		青島		揚子江域		世佐保		同	福州
		外國鎮戍		外國鎮戍		(朝鮮在勤)	朝鮮在勤	同	外國鎮戍
		一月半		一月半			半月	一月半	一月半
		同上		同上				同上	同上

海軍公報 (部内限) 附録

0789

海軍公報 (部内限) 附録

<small>伊號第辛六潜水艦 第陸第大 第陸第大 第陸第大</small> 長那妙羽鬼那川加天朝陸如彌卯 門智高黑怒珂賀內鯨霧霧月月生月						膠 州	佐 多	襟 裳
.....	一〇
.....	一一	一一	一一	一一
.....	一五	一六	二〇	二〇
.....	廣	吳	吳
.....	北米沿岸	タラカン	タラカン
.....	聯合艦隊	同	遠洋航海	遠洋航海
.....	一三分ノ月	同	一三分ノ月	一三分ノ月
.....			
.....			

五

0791

伊號第一潜水艦 薄、藤、葛、蓬			伊號第二潜水艦			伊號第三潜水艦	呂號第三潜水艦	菊、葵	第六 第六十一 第六十二 第六十三 第六十四
昭和一〇	昭和一〇	昭和一〇	昭和一〇	昭和一〇	昭和一〇	昭和一〇	昭和一〇	昭和一〇	
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
一四	一四	一四	一五	一五	九	七	一五	一五	
		(在役艦)			同	同	在役艦		
				一月	同	一月	半月		

海軍公報(部内限)附録

七

○恩給年
叙勳年 加算調書上巻中

呂六三 (一〇一三頁) ノ部ニ各
呂六四 (一〇一五頁) ノ部ニ各
呂六八 (一〇二三頁) ノ部ニ各

加フ

芙蓉 (六七七頁) ノ部八行目 「二、九三」 同・
「二、九三」 同大○
同連○
ノ誤植

九九
一〇九
二五
九
在役艦
一月
同上
フ

(限 内 部) 0793

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十六號

昭和十一年一月十五日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房第一八五號

昭和十一年官房第一八五號ニテ本号廢止



當分ノ間海軍會計規程第三十九條ノ規定ニ拘ラス第十二驅逐隊所屬驅逐艦ノ經費支拂ニ要スル資金ノ前渡官吏及取扱區分左ノ通定ム

昭和十一年一月十五日

海 軍 大 臣

支出官	資金前渡官吏	資金區分
吳海軍經理部長	第十二驅逐隊附主計科士官	驅逐艦遊撃ノ經費支拂ニ要スル資金
	沖島機裝員兼第十二驅逐隊附主計科士官	驅逐艦海禁ノ經費支拂ニ要スル資金

○通 牒

海軍公報(部内限) 第二千二百三十六號

昭和十一年一月十五日

一五

軍需機密兵六第七二號

昭和十一年一月十四日

海軍省軍需局長

横 須 賀

吳 世 保

佐 舞 鶴 要 港 部

軍需部長殿

兵器附着拂整理ノ件通牒(飛行長主管)

在庫竝ニ供用中ノ(補用)銃身及機銃歷ヲ主體機銃一挺ニ各一個宛附着拂整理相成度兵器簿ハ追テ改正可相成候

追テ爾今機銃ニハ常ニ補用銃身及機銃歷ヲ附隨取扱ノコトトシ特ニ分離取扱ヲ要スル場合ハ昭和十年十一月十九日軍需機密兵六第二五八七號ニヨリ處理ノコトニ了知相成度

○辭 令

0794

海軍公報(部内限) 第二千二百三十六號 昭和十一年一月十五日

一六

上海へ出張ヲ命ス 海軍中佐 野村 留吉
 中華民國へ出張ヲ命ス 海軍少佐 韋名 三郎
 海軍機關中佐 浦野 角造
 滿洲國へ出張ヲ命ス(以上^{一カ}海軍省)
 海軍中佐 中原 三郎
 廣東駐在ヲ免シ南京駐在ヲ命ス
 同 北浦 豊男
 南京駐在ヲ免シ廣東駐在ヲ命ス(以上^{一カ}同)

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十七號

海軍大臣官房

昭和十一年一月十六日(木)

○令 達

官房第一九七號

昭和十一年二月一日編成セラルベキ練習艦隊ノ司令部事務準備ノ爲軍艦八雲ニ於テ其ノ取扱ヲ開始スルコトヲ得

昭和十一年一月十五日

海軍大臣

○通 牒

人秘第二號ノ二

昭和十一年一月十六日

海軍省人事局長

各廳長殿

叙位叙勳具申ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ各廳ニ於テ夫々取扱者ヲシテ慎重

○辭 令

調査セシメ居ラルルコト被存候處最近該具申遲延ノモノ數件有之人事取扱上甚ダ遺憾ノ次第ニ有之候ニ付テハ取扱者ヲシテ尙一層ノ注意ヲ拂ハシムル様特ニ御配慮相成度

海軍豫備少尉

永井 利家

同

足立 睦雄

同

竹内 徳三

同

柳 田 修

同

森田 定平

同

長倉 常雄

同

橋村 直春

同

石井 英夫

同

吉見 悌二

同

大久保平八郎

同

水澤 定則

海軍公報(部内限) 第二千二百三十七號

昭和十一年一月十六日

一七

0797

○入學試験(考試)施行期日	
一、甲種學生	
試驗科目	試驗施行期日
甲種對策	昭和十一年三月十二日(木)午前
英(獨、佛)文和譯	三月十三日(金)午前
乙種對策其ノ一	三月十六日(月)午前八時交付
乙種對策其ノ二	三月二十一日(土)午前八時交付
二、機關學生	
試驗科目	試驗施行期日
數學(初等微積分學及平面解析幾何學)	昭和十一年三月十二日(木)午前
英文和譯	三月十二日(木)午後
甲種對策	三月十三日(金)午前
乙種對策其ノ一	三月十六日(月)午前八時交付
乙種對策其ノ二	三月二十一日(土)午前八時交付
三、選科學生(帝國大學ニ委託修學セシムベキ者)	
試驗科目	試驗施行期日
數學(初等微積分學及平面解析幾何學)	昭和十一年三月十二日(木)午前
英文和譯	三月十三日(金)午前

海軍公報(部内限)第二千二百三十七號

昭和十一年一月十六日

一九

0798

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○訓示

官房第二一九號

部内一般ニ訓示

今次倫敦ニ於ケル海軍軍縮會議ニ於テ關係各國ハ帝國ノ公正妥當ナル主張ニ賛同セザルノミナラズ現行條約ノ實質ヲ繼續セントシテ讓ラザルニ依リ茲ニ會議ヲ終止スルノ已ムナキニ至レリ

此ノ際各員ハ内外ノ情勢ニ鑑ミ帝國海軍ノ重大使命ヲ再確認シ眞ニ其ノ責務ノ重加セルヲ自覺シテ益結束ヲ鞏クシ奮勵努力以テ國防ノ大任ヲ果スニ遺憾ナカラシムコトヲ期スベシ

昭和十一年一月十六日

海軍大臣 男爵 大角 岑生

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十二年一月十六日(木)
海軍大臣官房

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十八號

昭和十一年一月十七日(金)
海軍大臣官房

○ 辭 令

軍令部部員海軍中佐 矢 收 章

第三部第五課勤務ヲ命ス(海軍司令部)

(各通) 海軍中佐 小倉 眞二(艦 本)
海軍少佐 松 村 翠(軍 務)

軍艦長門審議委員ヲ命ス

(各通) 海軍大佐 佐々木 清恭
海軍中佐 柳 本 柳作

軍艦長門審議委員ヲ免ス(以上海軍艦政本部)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

驅逐艦追風宛

自一月十六日迄ニ到達見込ノモノハ 長 崎

至同 三十日迄ニ到達見込ノモノハ 崎
追テ司令宛又ハ隊宛ノ書類ニシテ各艦ニ配布ヲ要
スト認メラルルモノハ寫ヲ直接同艦宛御送付ノコ

トニ御取計ヲ得度
尙給與關係書類モ追風宛(主計長乘艦)ニ御送付
ヲ得度)

(第二十九驅逐隊)

海軍公報(部内限) 第二千二百三十八號、昭和十一年一月十七日

海軍公報

(部内限) 第二千二百三十九號

昭和十一年一月十八日(土)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第二二八號ノ二

昭和十一年一月十八日

海 軍 大 臣

兵器經理規程改正委員會委員長殿

兵器經理規程ニ關スル研究調査ノ件訓令

貴官ハ委員ヲ督シ兵器經理規程ニ關スル研究調査ヲ行
ヒ概ネ昭和十一年二月末日迄ニ同規程ノ改正案ヲ立案
報告スベシ

○ 通 牒

海人機密第一號ノ五

昭和十一年一月十七日

海 軍 省 人 事 局 長

關係各廳長殿

海軍公報(部内限) 第二千二百三十九號

昭和十一年一月十八日

特修科砲術練習生ノ銓衡ニ關スル件申進

當分ノ間特修科砲術練習生ノ採用ニ當リテハ所見表、
考課表等特ニ定メラレタル銓衡資料ニ準據スル外尙左
記要領ニ依リ個人ノ適性ヲ調査ノ上參酌スルコトトシ
將來射手旋回手トシテ優秀ナル素質ヲ有スル者ヲ選拔
セララル様特ニ御考慮相成度

記

- 一 海軍砲術學校長ハ每期高等科練習生卒業者中照準
發射ノ伎倆特ニ優秀ニシテ將來特修科練習生タル
ニ最適ト認ムル者アルトキハ成績順序ヲ附シテ在
籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ通報スルト共ニ本人ノ
考課調査表ニ詳記スルコト
- 二 海軍人事部長ハ前號ニ該當スル者ハ成ル可ク在役
艦船ニ配員シ力メテ其ノ練度ヲ保持スル如ク考慮
スルコト
- 三 所轄長ハ第一號ニ該當スル者轉入シタルトキハ成
ル可ク照準發射ノ配置ニ充ツルト共ニ戰技終了後

其ノ他必要アル場合ニ於テハ本人ノ考課資料ヲ海軍人事部長ニ通報スルコト

○ 辭 令

海軍大佐 脇 鼎
兵器經理規程改正委員會委員長ヲ命ズ

海軍中佐 有賀 武夫

同 橋本 象造

同 岩高 賢治

同 佐藤 壽

同 小川 弘

同 田村 久三

同 湊 乾助

海軍少佐 石畑 四郎

同 藤間 良

同 松村 翠

同 岡山 齊

同 佐藤 毅

同 土井 美二

海軍機關中佐 村上 竹夫

(各通)

兵器經理規程改正委員會委員ヲ命ズ(以上ハ海軍省)

海軍造船大佐 子爵 徳川 武定(技研)

軍艦長門審議委員ヲ命ズ

海軍造船大佐 村上 義次

軍艦長門審議委員ヲ免ズ(以上ハ海軍艦政本部)

○ 雜 款

○郵便物發送先

第七戰隊司令部、軍艦青葉、衣笠宛

二月二日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

其ノ後ハ 第二艦隊司令部ニ同ジ

(限 内 部) 0802

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十號

昭和十一年二月二十日(月)
海軍大臣官房

○ 辭 令

滿洲國へ出張ヲ命ス(子明海軍省)
技生 皆川 光一

○ 雜 款

○正誤
一昨十八日辭令欄中「材上竹夫」ハ「村[○]上竹夫」ノ誤

海軍公報(部内限) 第二千二百四十號、昭和十一年一月二十日

二五

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十一號

昭和十一年一月二十一日(火)

海軍大臣官房

○雜款

○第七潜水隊行動豫定

伊號第一潜水艦

地名 着

一月二十日

發

伊號第二潜水艦、伊號第三潜水艦

地名 着

一月二十一日

發

○郵便物發送先

聯合艦隊司令部、第一艦隊司令部、軍艦山城宛

一月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ、横須賀

二月三日迄ニ同 愛媛縣八幡濱

同日迄ニ同 大分縣佐伯

同 二十一日迄ニ同 高知縣宿毛

同 二十五日迄ニ同 大分縣別府

其ノ後ハ、高知縣宿毛

第一戰隊司令部、軍艦長門、扶桑、榛名宛

二月一日以後到達見込ノモノハ

聯合艦隊司令部ニ同ジ

第八戰隊司令部、軍艦川内、神通、長良、第一水雷
戰隊司令部、軍艦阿武隈、第一潜水戰隊司令部、軍
艦迅鯨、第二十八潜水隊(伊六〇、伊五九、伊六三)、
第十八潜水隊(伊五五、伊五四、伊五三)、第十九潜
水隊(伊五七、伊五八、伊五六)宛

二月五日以後到達見込ノモノハ

聯合艦隊司令部ニ同ジ

左記ニ依リ假設無線電信所ヲ設置ス同期間電報ニハ
「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

自二月九日 佐伯

自同 十一日 宿毛

自同 二十三日 別府

自同 二十五日 宿毛

自同 二十七日 宿毛

自同 三十一日 吳

第二潜水戰隊司令部、軍艦鬼怒、第十二潜水隊(伊
六八、伊六九、伊七〇)宛

海軍公報(部内限) 第二千二百四十二號

昭和十一年一月二十一日

二七

其ノ後ハ

第三十潜水隊(伊六五、伊六六、伊六七)宛

一月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保

其ノ後ハ

第二潜水隊司令部ニ同ジ

第七潜水隊(伊一、伊二、伊三)宛

自今

神戸川崎造船所内第七潜水隊事務所

追テ當隊給與ハ一月十日附横須賀防備隊ヨリ分離

シ主計長職務執行者ノ任命有之候條給與關係書類

ハ直接當隊宛御送付ヲ得度

(第七潜水隊)

○事務所設置

第七潜水隊事務所ヲ株式会社川崎造船所内ニ設置シ明

二十二日ヨリ事務ヲ開始ス

(限 内 部) 0805 ✓

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十二號

昭和十一年二月二十二日(水)
海軍大臣官房

○雜款

○郵便物發送先變更(一月六日)
第一航空戰隊司令部宛
一月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ 横濱市鶴見
其ノ後ハ 佐伯海軍航空隊氣付

○高等科學生採用考試施行期日

考試科目	考試施行期日	記事
雜問(其ノ一)	昭和十一年 三月十二日(木)午前	參考書ヲ許 サズ
雜問(其ノ二)	三月十二日(木)午後	
普通學	三月十三日(金)午前	辭書ヲ許ス
英文和譯	三月十三日(金)午後	

(海軍工機學校)

海軍公報(部内限) 第二千二百四十二號 昭和十一年二月二十二日

(限 内 部) 0806 ✓

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十三號

海軍大臣官房

昭和十一年一月二十三日(木)

○ 辭 令

海軍豫備少尉 足立 陸雄
 同 竹内 徳三
 同 柳 田 修
 同 橋村 直春
 同 大久保平八郎
 同 水澤 定則
 同 佐川 保之
 同 佐藤 安彦
 同 根本 行英
 同 安田 二郎
 同 平岡 健二郎
 同 丸上 一平
 同 寺内 三郎
 同 宇佐美信二郎
 同 伊原 龍一

(各通)

吳鎮守府附被仰付

海軍豫備機關少尉 松尾 三郎
 同 結城 文雄
 同 吉田 喜代次
 海軍豫備少尉 永井 利家
 同 森田 定平
 同 長倉 常雄
 同 石井 英夫
 同 吉見 悌二
 同 船本 清登
 同 大河原 武
 同 渡邊 頼
 同 細野 正男
 同 藤井 優
 同 泉 彥
 同 宮崎 武男
 同 上田 新

(各通)

海軍公報(部内限) 第二千二百四十三號 昭和十一年一月二十三日

0807

海軍公報(部内限)第二千二百四十五號 昭和十一年二月二十三日

三二

三			二			十一年	十二年	十一年	月	○昭和十一年度聯合艦隊行動豫定	○雜款	佐世保鎮守府附被仰付(以上三司海軍省)	海軍豫備機關少尉 村上明義 水野武雄 西野讓 青木健				
中	上	下	中	上				旬									
九州西岸			九州東岸			九州西岸			第一艦隊					行	所		
九州北岸			九州東岸			九州西岸			第二艦隊					動	在		
			佐伯灣			在籍軍港											
九			八			七			六			五			四		
下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上
九州東岸			本州南岸			九州西岸			在籍軍港			四國西岸			九州東岸		
						臺灣、澎湖島、南支沿岸方面			日本海南部			九州東岸			九州北岸		
									朝鮮南岸			西海西南部			西海沿岸		

十一	十		
	下	中	上
在籍軍港	演習地	内海西部	

○郵便物發送先

第二艦隊司令部、軍艦愛宕、第二水雷戰隊司令部、軍艦那珂宛

二月 二 日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀
 同 六 日迄ニ 同 佐伯
 同 二十一日迄ニ 同 志布志
 同 二十五日迄ニ 同 鹿兒島
 三月 十三 日迄ニ 同 志布志
 四月 八 日迄ニ 同 佐世保

第七戰隊司令部、軍艦青葉、衣笠、第二潜水戰隊司令部、軍艦鬼怒、第十二潜水隊(伊六八、伊六九、伊七〇)、第三十潜水隊(伊六五、伊六六、伊六七)、第二航空戰隊司令部、軍艦加賀、第二十九驅逐隊(追風、疾風)、特務艦鳴戸宛

二月 三 日以後到達見込ノモノハ

第二艦隊司令部ニ同ジ
 左記ニ依リ假設無線電信所ヲ設置ス同期間電報ニハ

「ハホ」ノ指定ヲ要セズ
 至自二月五日 佐伯
 至自同 七日 志布志
 至自同 二十一日 鹿兒島
 至自同 二十五日 志布志
 至自同 二十七日 志布志
 至自同 三月十四日

第一水雷戰隊司令部、軍艦阿武隈宛

一月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保
 二月 三 日迄ニ 同 高知縣宿毛
 其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同ジ

第一潜水戰隊司令部、軍艦迅鯨、第二十八潜水隊(伊六〇、伊五九、伊六三)、第十八潜水隊(伊五五、伊五三、伊五四)、第十九潜水隊(伊五七、伊五八、伊五六)宛

一月二十四日迄ニ到達見込ノモノハ 各所屬軍港
 二月 一 日迄ニ 同 山口縣栗野
 同 三 日迄ニ 同 萩
 其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同ジ

○學生採用考試施行期日
 海軍砲術學校、海軍水雷學校、海軍通信學校高等科學生並ニ海軍航海學校航海學生

海海海海 軍軍軍軍 航通水砲 海信雷術 學學學學 校校校校	普通學	雜問(其ノ二)	雜問(其ノ二)	考試科目
	英(國)語 文和譯	數學	昭和十一年 三月三日(木)午前	考試施行期日
	三月十三日(金)午前	三月十三日(木)午後	三時間(自〇八〇〇 至二〇〇〇)	時 限
	四時間(自〇八〇〇 至二〇〇〇)	三時間(自二〇〇〇 至二六〇〇)	參考書ヲ 許サズ	記事
	辭書ヲ許 ス			

(限 内 部) 0810

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十四號

海軍大臣官房

昭和十一年一月二十四日(金)

○通牒

官房第三四八號

昭和十一年一月二十四日

海軍次官

各鎮守府司令長官殿

人事長會議開催期日ニ關スル件通牒

本年一月十三日官房第一四二號訓令ノ人事長會議ハ來
五月五日ヨリ開催ノコトニ定メラレ候

官房第七六號ノ二

昭和十一年一月二十四日

海軍次官

各鎮守府司令長官

舞鶴要港部司令官殿

海軍艦政本部長

臨時工廠長會議開催期日變更ニ關スル
件申進

○雜款

一月九日官房第七六號申進臨時工廠長會議開催期日ヲ
三月五、六日ニ變更セラレ候

○郵便物發送先

第八戰隊司令部、軍艦川内、長良宛

一月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保

二月三日迄ニ同 宿毛

其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同ジ

海軍公報(部内限) 第二千二百四十四號 昭和十一年一月二十四日

三五

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十五號

海軍大臣官房

昭和十一年一月二十五日(土)

○通牒

官房第三七二號

昭和十一年一月二十五日

海軍次官

關係各所屬長官殿

參謀長會議開催期日ニ關スル件通牒

本年一月十三日官房第一四二號訓令ノ參謀長會議ハ來
六月五日ヨリ開催ノコトニ定メラレ候

○辭令

(各通)

海軍少將 高須 四郎

海軍少佐 清水 健

中華民國及香港へ出張ヲ命ス

同 御船 傳藏

中華民國へ出張ヲ命ス(以上^{二十五日}海軍省)

○雜款

○郵便物發送先

第十八潜水隊(伊五四、伊五三)、第十九潜水隊(伊
五七、伊五八、伊五六)宛

二月 一 日迄ニ到達見込ノモノハ 山口縣栗野
同 三 日迄ニ 同 萩

其ノ後ハ 第一潜水戰隊司令部ニ同ジ

伊號第五十五潜水艦宛

一月三十一日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

其ノ後ハ 第十八潜水隊ニ同ジ

海軍公報(部内限) 第二千二百四十五號 昭和十一年一月二十五日

三七

(限 内 部) 0812

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十六號

昭和十一年一月二十七日(月)

海軍大臣官房

○雜款

○軍艦能登呂行動豫定

地名 着

佐世保 二月一日

基隆 二月四日

馬公 五月五日

(爾後馬公附近行動)

馬公 三月九日

高雄 三月九日

作業地 四月十一日

馬公 四月四日

佐世保 四月四日

發

一月二十九日

二月四日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

三月九日

○郵便物發送ニ關スル件照會

○郵便物發送先

軍艦能登呂宛

一月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ

二月三日迄ニ同

其ノ後ハ

佐世保

基隆

馬公

佐世保

基隆

馬公

本艦ハ本年度引續キ北支警備中ノ處任務ノ關係上行動頻繁ニシテ郵便物受領ハ著シク遅延シ事務處理上支障不尠ナルニ付自今必ズ左記ニ依リ發送相成度

記

門司郵便局氣付

軍艦球磨

(軍艦球磨)

海軍公報(部内限) 第二千二百四十六號 昭和十一年一月二十七日

三九

(限 内 部) 0813

海軍公報

(部内限) 第二千二百四十七號

海軍大臣官房

昭和十一年一月二十八日(火)

○令 達

官房第四〇一號ノ二

昭和十一年一月二十八日

海 軍 大 臣

空廠第五六號海軍航空廠處務規程中一部變更試行ノ件
認許ス

(參照)

空廠第五六號

昭和十一年一月九日

海 軍 航 空 廠 長

海軍大臣殿

海軍航空廠處務規程中一部變更試行ノ
件上申

左記理由ニ依リ海軍航空廠處務規程第八條第四號飛行
船及其ノ屬具ノ研究及調査ハ其ノ所掌ヲ科學部ヨリ飛

行機部ニ移スヲ有利ト認メ候ニ付當分ノ間之ヲ變更試
行致度候ニ付御認許相成度

記

飛行船及其ノ屬具ノ研究調査ハ當廠科學部ニ於テ行フ
如ク規定セラレアルモ元來飛行船ト飛行機トハ材料的
ニモ構造上ニモ相似ノ點多ク之ヲ同一廠内ニ於テ異レ
ル部ニ於テ研究實驗調査ヲ行フコトハ人員、施設並作
業ノ重複ヲ餘義ナクシ畢竟能率増進上不利ナルヲ以テ
之ヲ飛行機部ニ合併セシムルヲ有利ト認ム

官房第四〇七號

昭和十一年一月二十八日

海軍大臣官房

海軍大臣官房

海軍大臣官房

海軍大臣官房

駐滿海軍部及臨時海軍防備隊ニ要スル經費ハ海軍省經
理局長ヲ支出官トシ駐滿海軍部主計長及臨時海軍防備
隊主計長ヲ各資金前渡官吏トス
駐滿海軍部及臨時海軍防備隊ヨリ生スル收入ハ海軍省
經理局長ヲ歲入徵收官トシ駐滿海軍部主計長及臨時海
軍防備隊主計長ヲ各收入官吏トス

海軍公報(部内限) 第二千二百四十七號

昭和十一年一月二十八日

四一

昭和八年官房第一三九八號ハ之ヲ廢止ス 布

昭和十一年一月二十八日

海軍大臣

(参照) 昭和八年官房第一三九八號ハ駐滿海軍部及臨時海軍防備隊ノ資金前渡官吏及收入官吏ノ件ナリ

○ 雜 款

○航空關係參考資料送付ノ件照會
執務上參考ニ致度候條自今航空ニ關スル資料各一部御送付方御取計ヲ得度

(鎮海航空隊(假稱)設立準備委員長)